



山行報告

★ 横岳(12月11日～12日)

参加者 会員(障害者3名、健常者5名)
会員外(健常者1名)

☆12月11日

茅野駅に着き、バス停に行くと、予定の時間のバスがなく、1時間以上待つため、タクシーで行くことにする。私の持っている時刻表が古いのか、以前も間違ったような記憶がある。

ロープウェイで一気に標高 2,283m まで上がる。南アルプスや中央アルプス、南八ヶ岳などがよく見える。ただ、冬型気圧配置のため、北アルプス方面は雲に包まれていた。八ヶ岳も、蓼科山山頂が雲に包まれるなど、全体的に雲の多い天気だ。

スキー場は、人工降雪で滑られる状態だが、坪庭付近もうっすらと雪が付いている程度で、積もってはいなかった。



横岳手前のピークにて

坪庭からジグザグの道を登って、縞枯山方面の展望が開けてくると、稜線は近い。稜線に出て、

三ッ岳への分岐を過ぎると、北横岳ヒュッテにあっけなく着いてしまった。ザックを小屋に置かせてもらい、横岳を往復する。

うっすらと雪の付いた道は滑りやすいが、全員アイゼンを使用することなく、山頂に到着した。中央アルプスや南アルプスの展望を楽しむが、さすがに風が強く長居はできない。しかし、隣に見えるピークはここよりも高いということでそちらに行ってみることにする。こちらの高いピークには北横岳の標識があった。こちらでも記念撮影をして、下山にかかる。



北横岳ヒュッテで親父さんと語り合う

スリップに注意して、慎重に下り、無事北横岳ヒュッテに到着する。小屋に着いたら、早速宴会です。夕飯は、鍋料理で、小屋から1升瓶が振る舞われます。さらに食後、ストーブを囲んで小屋の親父さんと歌合戦です。親父さんの踊りも飛び出し、楽しい交流を図れました。外に出てみると、満天の星空でした。

☆12月12日

展望の良いところで日の出を見たかったが、みんな無精になり、小屋からも日の出が見える

ということで、ゆっくりと朝食を取る。小屋のおじさんと小屋の前で記念写真を撮り、三ッ岳に向かう。このルートは、大きな岩が積み重なっていて、視覚障害者の人には非常に厳しい。時々、怒鳴り声が出るくらい、みんな一所懸命にサポートをし、慎重に通過した。そして、9時40分、無事に三ッ岳山頂に到着。ヒュッテから2時間かかった。



雨池山の上空に広がる青い空

三ッ岳からの展望は素晴らしかった。昨日は雲に包まれていた北アルプスも今日はよく見え、槍ヶ岳や後立山の山々が見えた。そして中央アルプスに南アルプス、八ヶ岳南部の山々、さらに浅間山や頸城の山々。今日は奥秩父方面が雲に包まっている。やはり関東の方が天気が悪かったようだ。足下を見下ろすと、雨池が黒い森に包まれて光っていた。

三ッ岳からは急な下りが続く。これでもかこ

れでもかと続く岩の道を、足場を支持しながら慎重に下る。私は、先日の怪我のためサポートができない。それよりも、荷物を持ってもらって、私がサポートされている。もう少し、こんな状態が続くかも知れないが、許してください。

ようやく急な道を終え、平坦になったところで、昼食とする。ここからは、雨池山へのなだらかな登りだ。足下には、霜の付いた木の葉などが美しい。雨池山を過ぎるとまた岩の道だった。ここも苦勞しながら、みんなで力を合わせて下る。振り向くと、真っ青な空に白骨化した枯れ木が天を突いている。異様な世界であるが、これも美しい。

雨池峠に着くと、ホッと一息。ここからは木道がロープウェイの駅まで続く。しばらく行くと、縞枯山荘の青い三角屋根が見えてきた。周囲の山に溶け込んで、とても雰囲気の良い山荘だ。

雪の付いた滑りやすい木道を注意しながら歩くと、スピーカーから声の流れるロープウェイの駅に到着した。

短いコースでしたが、大きな岩が累々と積み重なり、視覚障害者の人にとって技術的に非常に困難なルートを克服できて、充実した1日だったと思います。

★三浦富士(忘年山行)(12月19日)

参加者 会員(障害者12名、健常者29名)

会員外(障害者3名、健常者6名)

朝、素晴らしい天気の中、30名近い人たちが品川駅に集まった。ちょっと、出発間際に切符購入でゴタゴタして、ホームに着いたのは、出発の数十秒前でした。慌てに慌てて、電車で飛び乗り、一路津久井浜へ。

途中乗車した人たちと合流し、津久井浜では48名に膨らんだ。声出しをした後、1班からスタートする。さすがに48名だと列が長く、先頭からはなかなか後の確認ができないが、ゆ

っくりと車に注意しながら歩き、観光農園の分岐に到着。ここで、今日の忘年会に使う荷物をバーベキュー会場まで数人のメンバーで運ぶ。急な車道のため、ちょっとバテ気味だった。

荷物を置いて、まずは三浦富士に向かう。農園のイチゴに歓声を上げたり、たわわに実ったみかんをおいそうだなと眺めたりしながら、ゆっくりと登っていく。今回は、小高さんにビデオを撮影していただいている。前に行ったり、後ろに行ったりと忙しく大変そうだ。

警察犬訓練所を過ぎると、山道になる。周囲の木々には多くのメジロが行き交っていた。最後の急な階段を上ると、あっけなく三浦富士の山



頂に到着した。残念ながら富士山は見えなかったが、三浦半島南端や相模湾、そして房総半島と、素晴らしい展望が待っていてくれた。ここで記念写真を撮影し、砲台山に向かう。最初は、少し狭い道だが、途中から林道のような歩きやすい道となる。回り込むように砲台山の山頂に到着して、ここで昼食にする。広い山頂は、先客もいたが、砲台の後を囲むように思い思いに腰を下ろし、軽く朝食を取る。

今まで薄曇りだった空には、少し怪しい黒い雲が広がってきたため、予定より少し早く出発する。武山に向かう道はとて歩きやすい。武山の山頂手前には、捨て猫が数匹いた。捨てる人間には腹が立つが、武山不動の方が面倒を見ているのだろうか、餌入れがあり、みんなふっくらして健康そうだった。

ほどなく着いた武山では、なんとツツジが咲いていた。こんな時期に咲くツツジもあるのだろうか？ それとも暖かさの影響か？ どちらにしても、驚いた。

武山からは、少し滑りやすい道に注意して下り、配水施設脇の車道にて、バーベキュー会場に向かう。会場手前で、ジョウビタキのメスが現れ、楽しませてくれた。

会場に着くと、忘年会だけ参加のITさん、YNさんが合流し、早速バーベキューを開始し、生ビールで乾杯だ。今年一番参加の多かった最多参加賞にはHNさんが、リーダー養成(技術)コースを除いた一般部門ではKTさんが、そし



て今年入会した人の中で最も参加の多かった新人賞にはASさんが受賞となり、ワインやバッグの商品授与式を行った。

忘年会は、AHさんのオカリナや、MKさんのギターで盛り上がり、歌あり、踊りありの楽しいひとときとなった。

参加していただいたみなさん、そして参加はできなかったけど会員となって支えていただいたみなさんのおかげで、忘年山行と忘年会で、今年1年を締めくくることができました。来年も、みんなが楽しめる山行を計画していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

★棒ノ折山(1月29日)

参加者 会員(視覚障害者2名、健常者5名)
会員外(健常者1名)

週間天気予報が二転三転して、いったいどうなるのかと思っていたら、朝は素晴らしい天気となった。冬の早朝の電車は暖房が利いていなくて寒い。

今回は、新宿駅集合は4人だけ。参加者全員でも8人とこじんまりとした山行だ。川井駅で、現地集合の人たちと合流し、バスで終点の清東橋まで行く。トイレをすませ、しばらく林道沿いに歩く。沢の水が冷たそうだ。登山道に入ると、小さな沢に沿ってワサビ田が長く続いている。花も咲いていたが、今が花の時期なのだろうか？

ワサビ田を過ぎると、急な斜面をジグザグに登るようになる。次第に雪が増えてきた。標高700m付近で10cmくらいだろうか？

尾根に出ると少し傾斜は緩やかになったが、雪の量が増し、滑りやすい。少し上がったところで、軽アイゼンを付ける。山頂までの距離が書かれている案内板に勇気づけられ、高度を稼ぐ。樹林の切れた空間が広がりはじめたら、そこは一面の雪原となった山頂だった。雲が次第に重くなり、ちらちらと冷たいものを感じるようになったが、低いながらも山並みが広がる。遠くと雪の景色を見ながら、テーブルについて

昼食にする。プチトマトやリンゴ、みかんなど、持ってきたものを提供してくれる人たちのおかげで、テーブルの上は満載だ。おいしいにおいに誘われたのか、ウソが2羽、すぐ近くの木に止まって、芽をついばみはじめた。両方とも、ほっぺの真っ赤なオスだった。3m位まで近づいても逃げずに、ついばんでいる。



昼食を終えると、雪原に自分の姿を残そうと寝ころぶ人たちが出てきた。雪と戯れ、記念写真を撮って、下山にかかる。下りは、やはり雪の道で滑りやすかった。アイゼンを持ってこなかった人は、慎重に下る。その脇をアイゼンの人、軽やかに下る。この違いは大きい。やはりアイゼンがあった方が早いし、間違いない。それでも、慎重に下ったおかげで、怪我もなく無事に下山した。

最後は、さわらびの湯に入って汗を流し、おいしい水分を補給して、帰途についた。

★根子岳(2月25日～26日)

参加者 会員(障害者2名、健常者7名)
会員外(視覚障害者1名)

☆2月26日

前日に菅平まで来て、ロッジがらん洞さんに泊まる。上田までは良い天気だったが、目が覚めると、そこは雪国だった。菅平は雪が降っていた。やはり、冬型気圧配置の影響を受ける地域は、全く天気が違う。ロッジでは、オーナーがピアノを弾き、みんなで歌を楽しんだ。

27日は、ロッジ周辺は天気が良かったが、山の方は雲に包まれて見えない。それでも回復方向にあるのは間違いなく、ロッジの車で登山口の奥ダボススキー場まで送ってもらう。



わずかに日が射し始める雪原

車を降り、ワカンやスノーシューを付けて、スキー場の中を登りはじめる。ワカンを付けるとつついペースが上がってしまい、Tさんが少しきつかったようだが、スキー場の終点を過ぎると、体調も良くなってきたようだ。



雪原を過ぎ、緩やかな登りを行く

周囲は、素晴らしい雪原が広がっている。霧に包まれて幻想的だ。広い雪原を過ぎるとゆるい登りに入る。先行パーティーのトレースがあるが、先日暖かい日があった時に溶けて凍ったようで、新たに積もった新雪の下はほとんど潜らない。どこでも歩けるが、少しでも楽をしようとトレースを頼りに登る。

根子岳は今回が初めてだったが、非常に登山者や山スキーヤーが多い。多くのパーティーが追い越していった。

ようやく右手に避難小屋が見えてきたので一休みし、さらに登りにかかる。傾斜が緩く、

少しずつ高度を稼いで、登っていく。時折、薄日が差し、青空もうっすらと見えるようになってきた。周囲の樹氷が美しい。

左手に小根子岳が見えてくる。あと一登りのはずだが、傾斜が緩いためにあそこが頂上だと思ふと、さらにその先に続いているという状態を何回か繰り返し、ようやく12時25分に山頂に到着した。山頂は、大勢の人であふれていた。四阿山方面を見ると、やせた尾根に全くトレースが付いていない。四阿山にこちらから登るには、やせた尾根からかなり下って登ることになるので、冬はかなり厳しいコースになりそうだ。

山頂は、小雪が舞っていて、残念ながら展望が得られなかったが、昼食を取り、記念写真を撮って下山にかかる。



根子岳山頂にて

下山は、管理事務所方面に下ろうと、トレースをたどったが、スキーのシュプールに沿って下っていったら、最終的には元の奥ダボススキー場に行くことになった。



真っ青な空の下、雄大な斜面を下る

下りは始めるとすぐに天気が良くなり、青空が

上空に広がりはじめた。広い雪の斜面を、真っ青な空をバックに、思い思いに下ってくる。雪と青空のコントラストが、とにかく素晴らしい。

先頭とラストの距離が空きすぎてしまい、先頭が見えなくなってしまったが、踏み後を順調に下る。正面の少し右側に、北アルプスの槍穂高連峰が見えてきた。左手には、湯ノ丸山や竈

ノ登山がくっきりと見えている。小さな橋を渡ると、そこが奥ダボスのスキー場だった。ロッジに電話をして、車で迎えに来てもらう。ロッジに着き、四阿山と根子岳の姿を眺めながら、コーヒーをご馳走になった。

■中止となった山行

- ・石老山(12/5) 雨と強風のため、中止しました。
- ・浅間嶺(1/16) 雨のため中止しました。
- ・阿弥陀岳北稜(2/19,20) 参加者不在のため、中止しました。

講習会報告

★気象講習会(1月23日)

参加者 会員(障害者5名、健常者8名)
会員外(健常者1名)

世田谷区上馬地区会館で、13時30分から14時30分まで、気象研究家の幣氏に講師をお願いし、気象講習会を行った。テーマは、「早春から春先の気象と地球温暖化」という興味深い内容で、天気予報の受け止め方や、これから初冬に向かったの気象についてお話を伺った。

○講習内容

1. 春の天候アラカルト
 - ・山岳雪崩とそのパワー
 - ・杉花粉の飛散ラッシュ
 - ・桜の開花・最早はどこ？
2. 春に多い天気図のパターン(山岳への影響)
 - ・春一番の低気圧(フェーン現象)
 - ・菜種梅雨(南岸低気圧)
 - ・メイストーム(新緑寒波)
3. 温暖化で地球のストレス増加～異常気象は正常に戻したい地球のサイン～

その他事業報告

★臨時総会開催(1月23日)

1月23日15時から世田谷区上馬地区会館で臨時総会を開催しました。

1. 社員(正会員)総数 40名

2. 出席者数 28名(うち書面委任者19名) 社員(正会員)総数の1/3以上の出席があり、総会が成立
3. 審議事項
(1)第1号議案 来年度活動計画の件
4. 議決結果
議案のうち、下記を修正の上議決

(2005年度活動計画参照)

- (1)尾瀬ヶ原(10/8~9)を至仏山に変更
- (2)大雪山の日程を(7/2~7/6)を(6/30~7/4)に変更

個人山行報告

★雲取山(2月12日~13日)

参加者 会員(障害者2名、健常者8名)

☆2月12日

今回は、山行計画の間が空いて、どこかにいきたいという要望もあったので、個人山行として雲取山に行くことにした。

空はスッキリと晴れ上がり、車窓から富士山がよく見えた。奥多摩駅に着き、バスでお祭に向かう。奥多摩駅から車で送っていただいたHさんのグループは、下山口の鴨沢に車を置いて、お祭まで歩いてもらう。

お祭で待っていると、斜面の上にサルが群れをなしているのが見える。近くにジョウビタキもいたので、ビデオに収める。

Hさんのグループが合流したので、出発する。林道の脇には、コゲラやルリビタキ、イカルなどが現れて、楽しませてくれる。林道は、次第に凍った部分が出始めた。しばらくは滑りにくいところを歩いていたが、塩沢橋のかなり手前で、橋を渡り右岸に渡るところでアイゼンを付けることにする。日影となって、凍結がかなり長く続いているので、アイゼンを付けた方が安全で、早いと判断した。

塩沢橋で昼食を取り、アイゼンを付けたり外したりしながら林道を進む。林道終点からようやく登山道に入る。ここも凍結して危険なため、

アイゼンを付けて登っていく。斜面に付けられた道を慎重に歩きながら、河原付近にテントが見えてくると、正面に三条の湯の石垣が見えてきた。石垣の下でアイゼンを外して小屋に向かう。



三条の湯は、温かな温泉に入ることができ、とても心地よかった。泊まり客も少なく、30畳くらいの部屋を我々10人と、小屋の常連さん1人で使い放題だった。夜になって雪が降りだし、うっすらと積もってきた。

☆2月13日

昨晚の雪も上がり、上空には青空が広がりはじめた。小屋の方と記念写真を撮り、3cmほど積もった雪の上を歩き、出発する。雪の下が凍っているので、アイゼンが小気味良く決まる。

青岩鍾乳洞分岐に着くと、そこには、朝の光が満ちあふれていた。赤みを帯びた朝の斜光は、

雪面をきらきら輝かせ、生き物に生気をよみがえらせてくれる。



笹の上に積もった新雪

しかし、ここから三条ダルミまでの尾根のトラバースは、長く所々狭く切れたり、栈道が現れて危険が一杯だった。しかし、慎重に通過し、安全地帯に来ると、春の歌まで飛び出してきた。南の方を見ると、大菩薩嶺の上に真っ白な富士山も顔を出してきた。

かなり時間がかかったが、ようやく三条ダルミに到着した。朝は良かった天気も、一面に高層雲が広がるようになってきた。富士山も雲に隠れてしまった。休憩後、山頂への急斜面を登りはじめる。次第に展望が開け、左手には浅間山や上越の山々が木の間越しに見える。振り返ると飛龍山を初めとする奥秩父の山々が連なっている。



雲取山山頂にて

急登を頑張り、岩が出始めると、ようやく山頂に到着した。避難小屋に入り、昼食を取る。予定よりかなり遅れているため、下山が心配だが、ガスコンロを持ってきてくれたHさんのおかげで温かいものを胃袋に流し込み、ホッと一息

入れることができた。

山頂を後にし、防火帯で樹林の切れた斜面を気持ちよく下る。残念ながら富士山は見えないが、手前のカラマツが美しい。奥多摩小屋で休憩し、ブナ坂からはトラバースするルートに行く。このトラバースは、なかなか長かったが、ようやく登り尾根の道に合流し、先を急ぐ。

堂所に16時30分に到着。このペースで下ると、完全に暗くなるため、Hさんに先に下ってもらい、鴨沢から小袖乗越まで車をあげておいてもらうことにした。

登り尾根の東側の緩い傾斜の道を、ややペースを上げ下っていく。振り返ると、赤指山付近が残照に彩られて赤く燃えているようだ。暗くなってきたが、しばらくは雪明かりで歩くことができた。しかし、杉林に入る手前からヘッドランプを使って下る。

順調に下ってきたが、突然後で「あー」という声が上がった。振り向くと、一瞬ザックが転がっているように見えたが、よく見ると人だった。弱視のTさんが転がっている。思わず「止まれ〜」と叫ぶ。幸い、傾斜がそれほどでなかったもので、5mほど転がったところで止まった。私が、すぐに下りていく。Oさんも途中まで下りてきて、Tさんの登るのを手伝ってくれた。ちょっと左の頬が張れているが、他は別状ないようだ。

このようなことがこれからないように、慎重に下りはじめる。しばらくすると、下の林道を行く車が見えた。さらに下りると、前にヘッドランプの明かりが見えた。Hさんが登ってきてくれたのだ。すぐに林道につき、待っていたHさんの車に乗り、鴨沢まで順番に送ってもらう。

暗くなったことで、ハプニングが起きてしまったが、今回は怪我もなく、無事に終了できた。しかし、今後への反省を怠ることはできない。弱視の人の下山を今後の課題として、考えていきたいと思う。

記：A

★湯ノ丸山(2月19日～20日)

参加者 会員(障害者2名、健常者3名)

☆2月19日

池袋から高速バスで、東部湯ノ丸で下車し、タクシーで地蔵峠に向かう。ロッジに着くと、六つ星山の会の方とその友達がくつろいでいた。今回は一緒に行動することにする。ゆっくりと昼食を取り、スノーシューの足慣らしに、キャンプ場経由で、つつじ平に向かう。

視覚障害者のAさんに湯の丸高原ホテルの屋根から地面(雪ですが)まで伸びた、何本も固まって直径が50cmくらいになった大きなつららに触れてもらう。こんな大きなつららに触れたのは、はじめての経験だという。触ってもらって良かった。

トレースのない雪面を歩いたりしながら、1m近く雪の積もった林道を登っていく。キャンプ場の炊事場の屋根は、雪の重みで大きく変形し、鉄製の張りも曲がっていた。雪の重みに驚く。

視覚障害者のAさんは、健常者のザックに掴まって歩くことなく、前に行く人の音や横を歩く人の「もっと右」などのアドバイスだけで歩いている。ザックに付けた紐をつかんでいると腕が疲れるが、これなら楽に歩けるはずだ。

つつじ平は、一面の雪原となっていた。どこでも自由に歩けるが、みなさんは先を急いで鐘のある分岐で待っていた。分岐から南側に続く斜面を下り、キャンプ場経由でロッジに戻る。

ロッジで汗を流し、冷えたビールで乾杯!!

☆2月20日

ゆっくり起きて朝食をいただき、スキーを楽しむNさんと分かれ、8:30に出発する。今日は、11:00までに行けるところまで行って引き返す計画だ。

つつじ平までの登りは、昨日下ってきたルー

トを取る。つつじ平に9:40に到着。ここから、湯ノ丸山に向けて登る。天気は曇り空だが、昨日よりは厚みも薄く、時折青空や薄日が差す。



振り返ると、麓ノ登山が高く聳えている。すでに唐松林は足下になった。時折日が差し、樹木の付いたカラマツが輝いて見える。

次第に樹林もまばらになり、ダケカンバなどの樹木が美しくなってきた。傾斜も増し、一步一步確実に登っていく。右手に大きな山が見えてきた。地図で確認すると、来週登る予定の四阿山だった。



急な登りが終わると、山頂はすぐそこだった。所々空いている人が足を落とした穴を避けて歩く。山頂は、残念ながらガスに巻かれて展望は得られなかった。しかし、登ってくることができて良かった。時間は11:10。予定していた期限に山頂に着くことができた。寒いので、記念写真を撮影して、少し下がって風のいないところで、休憩する。

スリップしないように、気をつけて下山にかかる。Aさんは、下りでも一人で歩く。今回は、最後までザックの紐に頼らず、一人で歩くことができた。スノーシューで歩ける山は、視覚障

害者にとって、とても楽しめるフィールドだと思う。Aさんも、多くの人に教えたいと言っていた。

大自然に育てられて

来年の事を言うと鬼が笑うと言いますが、去年の事を言うと？その？話します。

16年9月14日 アコーディオンコンサートを聴きに行った。タイトルは『アルゼンチン帰国報告コンサート』で、アルゼンチンの大自然、習慣などを紹介しながら、軽快なメロディーが会場にゆき渡った。

アルゼンチンは、果てしなく広がる平原、海と間違えそうな広い川、そして何よりも、あたたかく優しく思いやりのある国民性に、いっしょにいただけで大らかな気持ちになれたと話していた。

そう言えば、去年の7月アルプの山行『利尻山・礼文島』に参加して感じた事である。見渡すかぎりの海に囲まれた島で、大自然にふれながらの山旅は、私達の気持ちをウキウキさせて、笑っている合間に歩いているような、笑いつつ歩くような日々で、その声は高く広がる青空に大きくはじけた。

これは、北海道の雄大な自然に育てられたのではないだろうか。そして、これから大自然にふれて、心豊かに行けたらいいなと思いました。

記：A

各種報告事項

◆ホームページ情報

ホームページのアクセス数は、2月末日現在約16000のアクセスがありました。ホームページは、機関誌に掲載できない多くの写真が掲載されています。また、各種情報も迅速に流しています。パソコンをお持ちの方は、ぜひご覧ください。さらに、メールを使える方同士で、

メーリングリストも運営していますので、パソコンをお持ちの方で、メーリングリストに参加を希望される方は事務局まで申し込みください。もし、これからパソコンを購入したいという方がいましたら、ぜひ事務局までご相談ください。

今後の計画

▲定期総会の開催

平成17年5月14日(土)に定期総会を予定しています。詳細は、内容が確定次第、

案内をお送りしますので、予定しておいてくださいますよう、よろしくお願いします。

△会費納入のお願い

2005年度の年会費とスポーツ保険料の納入を3月末までをお願いします。

▼2005年度活動計画

4月以降の事業計画を別紙に掲載しています。春らしさが増してくるこの季節、春植物を探しに山に行きませんか？ また、5月と6月に北海道の山を予定しています。どちらも高山

植物の宝庫ですが、アポイ岳は体力に自信のない方にもお勧めです。大雪山は、寝袋を担いでの縦走となりますが、どこまでも続くお花畑が最高です。

◆感想やご意見を募集中です！！

山行に参加してみた感想を、ぜひ事務局までお寄せください。また、個人的にこんなところに行ってきたよとか、最近こんなことを思っ

ているなどのご意見を随時募集中です。事務局まで、ぜひお寄せください。

◇個人山行の計画

個人山行を計画されている方は、事務局まで計画書を提出ください。計画書を提出していないと、スポーツ保険の対象にならない可能性が

大です。もしもの時のために、必ず提出するように心がけてください。

【スポーツ保険のご紹介】

山仲間アルプで加入しているスポーツ保険は、掛け金が年間（4月1日から翌年3月31日まで）1,500円で、下記の補償があります。

- | | |
|-----------|--|
| 1. 障害保険 | 死亡 2,000 万円、後遺障害 3,000 万円、入院(日額)4,000 円、通院(日額)1,500 円 |
| 2. 賠償責任保険 | 身体賠償(1人 1 億円、1 事故 5 億円、免責 1,000 円)
財物賠償(1 事故 500 万円、免責 1,000 円) |
| 3. 共済見舞金 | 160 万円 |
| 4. 注記 | 雪山や沢登りなど、ザイル、ピッケル、アイゼンを使うような山は、保険金の対象となりません。そのような山に行かれる方は、各自山岳保険に加入願います。 |

会 員 情 報

◎新入会員のお知らせ

9月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。詳しくは、会員名簿をご覧ください。（敬称略）

正会員 1名

賛助会員 5名

編集後記

・理事長のつぶやき

3月25日から、愛知万博「愛・地球博」が開催されます。先日、「アースデイ環境出版大賞 in 愛・地球博」の実行委員の方からNPO法人向けに「あなたが守りたいこと」というテーマで文章を寄せて欲しいという依頼があり、「共に楽しむこと」の大切さを書いて送りました。今回の文章は、1冊の本にまとめられ出版されるそうです。また、「ア

・次回発行予定は、6月です。

ースデイ環境出版大賞 in 愛・地球博」へノミネートされるそうです。やってあげたり、やってもらうのではなく、「共に楽しむこと」は、計り知れないほどの深い意味を持っていると思っていますが、いつまでも守り続けたいことですし、理解してくれる人を増やしていきたいなと思っています。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。
自然は、誰に対しても平等だよ！！

